

研究課題名：がん医療ネットワークナビゲーターによるがん医療情報提供強化プロジェクト：
情報が確実に手元に届く地域連携モデルの構築

課題番号：H26-がん政策-一般-007

研究代表者：群馬大学大学院医学系研究科病態腫瘍薬理学 教授 西山 正彦

1. 本年度の研究成果

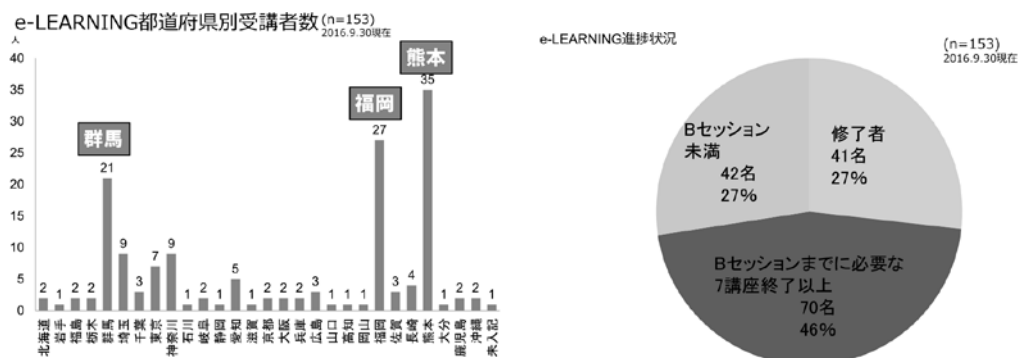
本研究は、（１）初年度（平成26年度）に、「がん医療ネットワークナビゲーター」を養成するための教育プログラムを確立し、（２）次年度にこれらの教育プログラムを実稼働させ、初回の資格認定を目指すとともに、プログラムの実効性を評価、内容を改善、（３）最終年度には、資格取得者を、熊本、福岡、群馬の３地域に実際に配置してモデル事業を展開、その効果と発展性、課題を検証し、研究を総括する計画となっている。

最終年度となる平成28年度は、計画通り、初回認定者を実際に配置して事業を展開するとともに、実地研修を含めた教育プログラムを継続して、その効果と発展性、課題を検証した。基盤知識習得のためのプログラムとして、１）教育研修セミナー（Aセッション）を横浜で開催（平成28年10月20, 21日 参加者計34名：昨年度まで開催と合わせ計808名）、２）e-ラーニングを継続（平成28年10月22日現在 受講者計158名）、３）コミュニケーションスキル研修（Bセッション）を平成28年10月22日に横浜で開催（参加者19名 受講者計99名）した。実地研修については、４）計84施設を実地研修施設に認定し、計20名が研修を行っている。このうちすべてのプログラムを修了した4名を「がん医療ネットワークナビゲーター」として初回認定した（平成28年10月22日現在）。

これら教育プログラムの実施と並行し、受講者、指導者のアンケートを含め、その効果と発展性、課題の検証を行っている。現在までに、１）認定制度を２段階制として、現プログラム修了者を「がん医療ネットワークナビゲーター」の指導者（上級認定）とし、適切な相談者へつなぐことに限定した役割を果たす人材（一般認定）の研修負担を軽減する教育プログラムを作成する、２）Aセッションのe-ラーニング化、３）実地研修の内容の見直し等、今後、事業を拡大して展開していくために不可欠となる改良点、及びその対応策を明らかにしつつある。

1) e-ラーニング

平成27年4月1日からe-ラーニング・プログラムを公開し（CANCER e-LEARNIGシステム <http://www.cael.jp/>）、平成28年9月30日現在、受講申込者153名、全コンテンツ視聴終了・小テスト修了者41名、Bセッション条項に必要な7講義終了以上の者70名となっている。モデル事業を行う3県以外からも広く応募があり、全国展開が期待される状況となっている。



内容・運営に関する検証も進めている。おおむねコンテンツに関する評価は高く、受講者アンケートにおいても、いつでもどこでも受講できることから良好な評価を得ている。

2) 教育研修セミナー (Aセッション) の実施

引き続き、eラーニングを補完する直面式教育機会の提供の場として教育研修セミナー (Aセッション) を企画、横浜で実施した[2016教育研修セミナーin横浜 2016年10月20, 21日(土) (参加総数34名)]。内容・運営に関する検証では、課題として、①テキスト内容の変更が随時必要(現在のテキストも改変が必要)、②場所の選定・回数決定、③講師・会場の確保、④コスト等があげられており、eラーニングでの代替等、の対応について検討中である。

3) 教育研修セミナー (Bセッション) の実施

引き続き、ロールプレイングを含めたコミュニケーションスキルの教育の場として教育研修セミナー (Bセッション) を企画、横浜で実施した[2016教育研修セミナーin横浜 2016年10月22日(参加総数19名)]。検証作業では、運用に関する課題として、①場所の選定・回数決定、②講師・会場の確保、③コスト等があげられ、教育プログラムに関しては、①討論例数、②時間的な制限、③職種によるレベルのばらつき等の課題を明らかにしている。Bセッションは教育に必須であるとの判断から、その維持を前提とし、①ダイジェスト版を作成してホームページで公開する、②開催地のファシリテーターを中心に開催する(コストの削減)、③フォローアップのため精神科の医師1人を配置する、④ロールプレイ・グループワークの振り返りの時間を延長する、⑤相談内容の例題を充実させる、⑥eラーニングで事例検討を行う等の、課題解決に向けての対応を検討中である。

4) 実地研修

研修施設の認定：研修施設を拡大し、認定した。

- 群馬：群馬大学医学部附属病院、群馬県立がんセンター、前橋赤十字病院等 16 施設(7 施設増)
- 福岡：九州大学病院、九州がんセンター、福岡大学病院等 18 施設(7 施設増)
- 熊本：熊本大学医学部附属病院、熊本赤十字病院、熊本医療センター等 19 施設(3 施設増)
- その他の都道府県 27 施設

を実地研修施設に認定した。(平成 28 年 10 月 22 日現在)

実地研修

2016 年 1 月より申請受付、随時実地研修を開始した。現在までに 20 名が認定研修施設で実地研修を行っており、6 名が修了、このうち 4 名が資格を取得、2 名が現在資格認定申請中である。

2. 前年度までの研究成果

初年度は、1) eラーニングのコンテンツを確定して収録と監修を終了、2) 教育研修セミナー (A セッション) を、群馬、福岡、熊本でセミナーにて開催し、3) コミュニケーション・スキル研修の要綱とともに、4) 実地研修要綱とマニュアルを作成し、「がん医療ネットワークナビゲーター」の養成基盤を確立した。2年目となる平成 27 年度には、教育プログラムを実稼働させた：1) eラーニングの正式受講を開始し、2) 教育研修セミナー (A セッション) を京都で開催、ロールプレイ等を含む、3) コミュニケーションスキル研修 (B セッション) に

については、ファシリテーター・マニュアル、テキストを作成、平成 27 年 11 月 1 日に京都大学で初回研修会を開催（参加者 22 名）、平成 28 年 1 月末までに、熊本、福岡、群馬と順次開催した。また、実地研修については、4) 要綱とマニュアルを完成、福岡、熊本、群馬 3 県で説明会を実施し、計 36 施設を実地研修施設に認定した。平成 28 年 1 月より実地研修を開始した。

3. 研究成果の意義及び今後の発展性

多くの患者にとって、がんとの闘いはすべてが未知の体験である。“知る”ことは医療と生活の選択基盤であるが、情報提供体制は十分ではない。退院後も、また、あらゆる相の病態でも、確実に国民の手元に届くがん医療情報の提供システムの確立は、「がんになっても安心して暮らせる社会」を実現するために必須の要素である。しかしながら、がん診療連携拠点病院にがん相談支援センターの設置が義務付けられてはいるが、その認知度は極めて低く、総利用件数は 13 万件程に過ぎない。拠点病院のがん患者のうち利用した者は 7.7%にとどまり、診断されて 5 年以内のがんサバイバーが 200 万人ほどいることを考えれば、その利用率は 6%にも満たない。どこへ行けば信頼できる情報が得られるか、身近にそこへ導く人材なくして国民の手元に届くがん医療情報の提供体制は実現しない。

本研究は、1) 地域がん医療の水先案内人ともいえる「がん医療ネットワークナビゲーター」を配置し、がん医療情報提供体制の強化をはかる試みであり、2) 人材養成の質と事業の継続性を担保するため、日本癌治療学会、日本医師会、日本看護協会、日本病院薬剤師会等が協働し、3) がん相談支援センター/地域医療連携室在室者、ピアサポーターも含め、職種を問わない人材養成を展開するもので、がんの医療とケアの面から、医療、介護、住まい、予防、生活支援サービスが身近な地域で包括される「地域包括ケアシステム」の確立に大きく寄与するとともに、がん患者の診療と社会生活に関わる様々な情報を確実に伝える仕組みの確立によって「がん対策推進基本計画」の推進、設定目標実現の促進に貢献すると考えられる。学会の認定資格制度として質を担保し、継続的に展開する試みでもあり、職種を問わないことから、新たな雇用機会の創生、ワーキングシェアの導入機会の増加にもつながる可能性が高い。本研究は、患者の複雑な病態や多様なニーズにも対応できるよう、地域の経験や創意を取り入れるもので、明らかとなった課題は新たな政策提言に寄与し、「全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上」、「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」に向けて大きな推進力を持つものと期待される。

4. 倫理面への配慮

本研究は、人材養成と医療情報の提供体制の確立を目的とした研究で介入試験を伴わない。ただし、モデル事業における評価は疫学研究の対象になるとも考えられ、「疫学研究に関する倫理指針」を遵守してこれを行う。また、現在、疫学研究と臨床研究に関する倫理指針の見直しが進められていることから、「臨床研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成 27 年 4 月 1 日施行）」にも配慮して研究を進める。

モデル事業の評価を行う際には、研究対象者に対する個人情報の管理、人権擁護上の配慮、不利益・危険性の排除や説明と同意（インフォームド・コンセント）への対応を含めた研究計画について、全施設の関連倫理審査委員会に申請して審査を受ける。臨床試験でないためにモニタリング・監査に関する特別な体制は構築しないが、研究代表者、分担者は、研究の適正性

及び信頼性を確保するために必要な情報を収集して、研究参加機関の長にこれを報告し、依頼を受けた倫理審査委員会の審査を受け、研究参加機関の長の指示・決定に従って研究を行う。

5. 発表論文

1. Blomme A, Costanza B, de Tullio P, Nishiyama M. (他 24 名, 22 番目): Myoferlin regulates cellular lipid metabolism and promotes metastases in triple-negative breast cancer. *Oncogene.* (in press)
2. Motohara T, Fujimoto K, Tayama S, Katabuchi H. (他 3 名, 7 番目): CD44 Variant 6 as a Predictive Biomarker for Distant Metastasis in Patients With Epithelial Ovarian Cancer. *Obstet Gynecol.* 2016 Jun;127(6):1003-11. doi: 10.1097/AOG.0000000000001420.
3. Nakazawa S, Shimizu K, Nagashima T, Mogi A, Kuwano H.: Quality of life after video-assisted surgery for lung cancer. *Lancet Oncol.* 2016 Aug;17(8):e318. doi: 10.1016/S1470-2045(16)30298-4.
4. Watanabe A, Araki K, Hirai K, Kubo N, Igarashi T, Tsukagoshi M, Ishii N, Hoshino K, Kuwano H, Shirabe K.: A Novel Clinical Factor, D-Dimer Platelet Multiplication, May Predict Postoperative Recurrence and Prognosis for Patients with Cholangiocarcinoma. *Ann Surg Oncol.* 2016 Jul 21. [Epub ahead of print]
5. Nojima M, Matsui T, Tamori A, Kubo S, Shirabe K. (他 8 名, 5 番目): Global, cancer-specific microRNA cluster hypomethylation was functionally associated with the development of non-B non-C hepatocellular carcinoma. *Mol Cancer.* 2016 Apr 30;15(1):31. doi: 10.1186/s12943-016-0514-6.

6. 研究組織

①研究者名	②分担する研究項目	③所属研究機関及び現在の専門 (研究実施場所)	④所属研究機関における職名
西山 正彦	養成プログラム及びモデル事業の計画立案、及び研究総括	群馬大学大学院医学系研究科/病態腫瘍薬理学 (同上)	教授
片淵 秀隆	がん医療ネットワークナビゲーターの養成プログラムの確立と実践、及び熊本モデル事業の推進	熊本大学大学院生命科学研究部/産科婦人科学 (同上)	教授
桑野 博行	がん医療ネットワークナビゲーターの養成プログラムの確立と実践、及び群馬モデル事業の推進	群馬大学大学院医学系研究科/病態総合外科学 (同上)	教授
調 憲	がん医療ネットワークナビゲーターの養成プログラムの確立と実践、及び福岡モデル事業の推進	群馬大学大学院医学系研究科/肝胆膵外科学 (同上)	教授